

ムギ類うどんこ病情報第1号（コムギ）

令和5年4月21日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

きぬあかりのほ場で広く発生が確認されています

1 ムギ類うどんこ病の発生状況（4月下旬調査の速報値）

4月19日及び20日に県内10ほ場（コムギ）で行った巡回調査において、うどんこ病の発生ほ場率が90%であり（同ほ場を対象にした4月下旬時点の発生ほ場率、令和4年0%、令和3年80%）、うどんこ病の発生が多かった令和3年と同水準でした。

主にきぬあかりのほ場で発生しており、一部のほ場では、上位葉や穂への病斑の進展が確認されました。

2 うどんこ病の生態と被害状況

うどんこ病の白いカビはやや乾いているときに多く形成され、風で飛散して付近に伝染します。この病斑は下葉から発生し、しだいに上位葉に移ります。止葉を含む上位2葉及び穂に多発すると減収につながります。

3 防除対策

ほ場をよく確認し、上位葉に病斑の進展がみられる場合は、赤かび病の防除の際にうどんこ病にも適用のある薬剤を選択するなど、下表を参考に防除しましょう。

病斑は下葉から発生するので、株元まで薬剤が到達するように散布すると効果的です。

表 小麦におけるうどんこ病の主な防除薬剤

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	トップジンM水和剤	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)	散布	1
	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	散布	3
	チルト乳剤25	収穫3日前まで	3回以内	散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	散布	3

(無人航空機用)

作物名	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	FRACコード
小麦	シルバキュアフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	3
麦類	ワークアップフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	無人航空機による散布	3

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。